

令和7年12月19日開催「議会懇談会」概要

○開会 荒生委員長

- 1 開会あいさつ 岡本副議長
- 2 懇談会進行説明 事務局長
- 3 出席者紹介 席順で自席にて自己紹介
- 4 懇談 北條副委員長が進行

① 猟友会富良野支部上富良野部会の紹介

則藤事務局長より説明

- ・会員 26 名（左記の中に町外の方 2 名）
 - うち農業者 11 名（42%）
 - うち仕事に従事 11 名（42%）
 - 上記以外 4 名（16%）、この方々が主たる活動を担う
- ・捕獲の状況
 - クマ R6-6 頭、R7-1 頭
 - シカ R6-86 頭、R7-127 頭
 - アライグマ R6-199 頭、R7-271 頭

② 鳥獣被害対策の実施にあたり、③ これからの部会活動、町づくりについて 会員

- ・今年ヒグマ 18 頭捕獲、ヒグマの報道によって皆さん不安になっていると感じる。
- ・江幌山間部で目撃情報が多い。
- ・郡部において箱わなで捕獲してきている。これによって市街地にクマは来なかったと考える。
- ・シカの駆除、農作業する日中以外で、日の出間近の 4:30~5:30 に活動。軽トラで見回りし、撃つこともある。週 5 回 200 キロで 1 頭取れるかどうか。
- ・車のガソリン代（約 3 千円）、弾の費用（1 発 1700 円、以前は 700 円位）、活動時間を考えると割の悪い作業。

会員

- ・箱わなが足りない。各地区に置けると良い。
- ・箱わなの移動に役場車両が使えないこともあり困ることがある。

会員

- ・防災無線を聞いて出没区域の畑などを見回りしている。
- ・警察等からは射撃練習するように言われる。20~30 発撃つが費用掛かる。
- ・日新清富、江幌静修、草分にも出ている。
- ・役場において、クマの情報を農家に聞き取りすること必要。

会員

- ・農地面積が広く電牧柵の設置は難しい。
- ・箱わなが足りなく、移動ができない。会社で作成し設置する予定。移動しなくて済む。

会員

- ・土日に活動、現場をチェックするが、発砲の判断は難しい。練習と思うが弾代が高い。

- ・ハンターになるには、書類作成のほか、装備品の購入など初期投資がかかる。興味だけで取り掛かることは難しいと思う。

会員

- ・中の沢方面で活動、120-130 回行っている。
- ・演習場内からシカ出てくる。17 頭仕留めた。
- ・地区ごとで出没する時間帯が決まっている。狩猟は日の出から日の入りまで。夜間の銃猟が出来れば良い。
- ・シカは頭が良い。占冠の猟区にシカいない（発砲あること知っている）。道路上には撃つてこないとわかるから出没する。
- ・IT を活用して見回りの回数を減らすことができれば良いと思う。
- ・自衛隊の土地が多いため、演習場などに入ることができたらもっと捕獲できると思う。

会員

- ・猟銃すると町等に提出する書類作成が必要で、手間がかかり農作業に支障が出る。
- ・中の沢が餌場になっているのでないかと感じる。

会員

- ・シカの群れは年々増加していると思う。
- ・清富で毎年捕っているがいなくならない。足跡は増えている。
- ・電牧が利用できるのは助かる。農地を守るためにはこれしかない、農家自らも守ることが必要。
- ・役場職員にもハンターは必要でないか。猟友会に頼むだけでなく、自らハンターを育成することも必要でないか。

会員

- ・駆除に係る手当額について説明。
- ・パトロールには助成無し。
- ・銃の練習に支援無し。
- ・猟友会としては、車のガソリン代や弾代を助成する余裕はない。
- ・アライグマの捕獲多くなっている。助成金は7-8年前と同じ。会員はボランティアである。
- ・ヒグマの処理は一人では無理、手伝いが必要。エサはシカ。夏場は肉が傷む。箱わなの清掃も必要。活動は金目的ではない、必要な予算が求められる。
- ・狩猟に伴う事故防止から、周辺からは離れることの指導広報が求められる。YouTube 動画を配信する人が寄ってくることも。

会員

- ・ライフルの取扱いに関して警察など機関が都合よく改正してきた。
- ・法改正により若い人がライフルを持ってない。
- ・ヒグマはライフルでないと厳しい。
- ・若い人は遠距離からの射撃は無理。
- ・春グマ駆除は注意が必要。シカを撃って藪に入るなどいわれている。30分でクマが寄ってくる。
- ・人間の食べ残し、飲み残しのペットボトルなどあさる動画ある。農家に支障出ている。

- ・弾の種類について説明。
- ・クマの特性について説明。
- ・指導員の立場について説明。
- ・免許の取扱いについて説明。
- ・箱わなにより郊外で仕留めている。1基80万円くらい。1トン600キロで大きい。もっと数が必要。
- ・土日、職員が出られなくて我々に連絡来る。
- ・シカの増加は人害である。
- ・職員も銃免許を、自治体の助成制度を参考に。
- ・隣町は猟友会の事務局を町職員が担っている
- ・隣町では、関わりある農業の組合から助成を出して箱わなを作っている。
- ・隣町ではアライグマ900匹と聞く。上富良野は農家に講習し自ら設置しているケースあり。
- ・シカは撃っていれば出てこなくなる。狩猟のための日没時間への対応が必要。
- ・若い人は銃を持たなくなった。
- ・クマは人を恐れなくなった
- ・我々はボランティア、職務ではない、予算は必要。
- ・駆除マニュアルを作成して、素早く捕獲できるようになると良い。

会員

- ・箱わなは、6基（東中2、清富2、あと2基を移動使いまわし）。江幌静修に必要。
- ・銃の関係について説明～ハーフライフルが持てなくなった。ライフル銃は10年かかる。町が推薦し特例5年。散弾銃の関係、50m、10-20m必要。
- ・射撃場での練習、当麻1回8千円、年会費1万円1回2千円。いかなければ1か月は必要。
- ・銃の危険性について説明～トラップトップなど
- ・弾の特性について説明。
- ・責任の所在について説明～砂川の件、ハンターに対する措置
- ・ワナについて説明～ワイヤー式、ゲート式、カメラ撮影伝送
- ・報奨金を高くすれば良いというわけではない。例として、隣町は近隣より高いため、1500頭の申請あったようだが、捕った数からして実態は減っていないように感じる。他で捕ったものを申請しているのではないかとの声もある。狩猟は義務ではないので、高額は必要か。
- ・上富良野は技能講習免除あり、8千円
- ・アライグマ用の道具買い増し必要、8-10千円
- ・上富良野は夏対策、24時間のワナ有効、日没制限の見直しを。
- ・シカは自分の頭の高さまで飛び越える、電牧は一定の高さ必要、設置への予算付けは。
- ・色々なことに費用かかる。ガバメントハンターの雇用も有効では。

会員

- ・山に餌場を確保しては。自然に戻すことが原点。
- ・餌場がないと市街地に降りてきてしまう。

- ・山部地区では餌場を用意していると聞く。

会員

- ・町の申請において、許可期間が空かないようにすべき。

北條副委員長

- ・国や道に関わる点は対応難しいと思うが、ご意見は参考とさせていただき、一般質問などで反映していきたい。
- ・予定の時間を迎えたので、以上で懇談会を閉じる。

5 閉会あいさつ 川田副会長

- ・自衛隊、警察、消防は職務、自分たちはボランティア。町の対策を考えてほしい

○閉会 荒生委員長